

向陽

〒780-8041 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(0888)33-4394 FAX(0888)33-7373 <http://www.inforyoma.or.jp/tosako/>



**現在部員80名
足りない楽器で
がんばっています**

私は47回生鎌田圭子(旧姓岩貞)と申します。現在、土佐中学一年の担任で、英語を教えています。今日は、吹奏楽部の現状と悩みを、少し述べさせてもらいます。

土佐高校吹奏楽部は野球部の応援団として結成されて以来、四〇年余の伝統を持ちます。その顧問となつて、はや三年がたちました。当初は五〇名だった部員が現在では八〇名います。

昨年は、合宿先の馬路村でコンサートを行いました。また、高知県吹奏楽コンクールでは、久々に金賞をいただき、ただ今、急成長をしているところです。ジャズにおいては、原信夫さんやマルタさんから期待のお言葉をいただき、県下ではどこにもひけをとらないのではと思っております。これも、土佐高OB楽団に何かとお力添えをいただいたり、また指揮者兼トレーナーとしておいでいただいている、

38回生の西岡恭一先生のおかげと感謝いたしております。

今年、第三回スプリングコンサートをオレンジホールで開き、諸先輩の方々にアドバイスをしてもらいながらも、生徒たち自身が作りたいコンサートを実現することができました。自分たちで企画運営ができる土佐高魂は、まだ生きています。

千名近い、最高の入場者数でした。でも生徒たちがこんなに頑張っている演奏をしているのに、昼間のコンサートは聞いてもらえるお客様が少ないのです。昼間は、体育のクラブ員や他校の吹奏楽部員は、練習があるため来られません。残念ながら、夜の演奏会はクラブ活動の時間を超えるということで、学校から許可がおりません。昼間の演奏会は土佐高校だけなのですが……。

昨年のジャズサウンドクリエイションの際、「土佐って結構やるね。こんなにすごいとは思わなかった。コンサートにも一度行ってみたいわ。」
と言う他校の生徒たちの声も聞こえました。夜なら、オレ

ンジホールを満席にできるかも知れないのに残念です。

生徒たちは、今コンクルールの四国大会出場を目標に、日々練習を重ねております。楽器さえ揃えば、四国大会にける可能性大ですのに、歯がゆい思いをしています。昨年のコンクルールの審査員評では、シンバルが悪いのか、それともたたき方が悪いのかと書かれました。あの時、シンバルを買っていたら、四国大会に一歩近づいていたのにと悔しい思いをしました。

今年の中一の部員勧誘二〇名を目標にすると、
「先生、今でも足りないのに、あんまり入ったら楽器が足りなくなつて困るんですよ。」
現在は、土佐高OBや元保護者の方が顧問をしている学校の楽器を借りたりしてしのいでいます。土佐高の楽器の老朽化もひどくて、修理費が部費に占める割合が増えていきます。向陽会予算も十八万円程で、二年にひとつ楽器を買えるかどうかです。十年かかって貯めてきたコンサート利益も、ティンパニに消えてしまいました。せつかく中高一貫教育であるのに、楽器

一つでは後継ぎを育てることができません。チューバ、ピッコロ、ユーフォonium、エスクラ……。朝、目覚めるとその悩みで一日が始まります。折角、才能のある生徒たちが集まってきているから、いつかは全国大会という檜舞台を体験してもらいたいというのが、顧問としての夢であります。それから、再び応援団として甲子園で演奏する日を、部員一同期待しています。

来年のスプリングコンサートは、五月二日(日)にオレンジホールです。皆様ぜひおこしください。スプリングコンサートに行けばなつかしい顔に出会える、そんな場になってほしいものです。また、今年のコンサートのビデオも貸し出したしますので、お声をおかけください。

1997年度事業報告



'97
4月17日

会長・幹事長会開催

5月25日

関東支部総会へ出席

5月31日

東海支部総会へ出席

7月5日

役員会開催

7月23日

香川支部総会へ出席

8月2日

支部懇談会ならびに平成9年度総会開催

9月20日

本部役員懇談会開催

今後の運営につき協議

'98
1月24日

広島支部設立一〇周年記念総会へ出席

1月31日

母校卒業式・岡村会長祝

辞

同日

同日

関西支部総会へ出席

2月21日

会長・幹事長会開催

創刊に当たって



同窓会会長
岡村 甫

昨年の総会で本会の会長に就任することになりました岡村です。今まで何の貢献もして来なかった罰であると観念して、不適任であることを承

知しながら、お引き受けすることになりました。

実際の仕事は、岡内紀雄幹事長を中心とした役員の方々に、すべてやって預け、私は

総会に出席するだけで結構だ、とのこと、私にも勤まると考えたからです。また、私の心の故郷であり、今日の自分があるのも、土佐中学・高校での六年間があるゆえであることを、日頃から感じていたからです。

戦後の混乱期に、小学校を数回転校した関係もあって、人に多少馴染みにくく、友達も少なかった私にとって、最初から最後まで、同じ仲間たちと、素晴らしい先生方とに囲まれた六年間は、天国とい

つてもよい環境でした。

会長として私に何ができるかを考えてみました。同窓会の役目は、その規約から、会員相互の親睦を図り、母校の発展を応援することであると考えて良いようです。また、会員各位が母校の情報に強い関心を寄せておられることを耳にする機会があり、教育界で長く過ごして来た関係で、卒業生とその母校との間での情報交換を直接行う機会が、一般に少ないことに気づいていました。

そこで、母校の教員が積極的に参加することを条件として、会報を発行することを提案しました。幸いにも、役員の方々の賛同が得られ、山崎和孝副会長が責任者となることを、また、土居徹教員が在校会員の責任者として全面的に参画していただけることをお引き受け頂けました。

会報の発行が、本会の目的達成の一助となるよう、会員の皆様のご協力をお願い致します。

発刊に寄せて



学校長
森田 幸雄

同窓会会員の皆様には、日頃、母校土佐中高教育振興のため物心両面にわたり多大のご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

(3) この度、山崎副会長さん始め本部役員の方がた、それに

在校幹事の皆さんがたが編集主力となり、本部会報が創刊されることをお聞きし、その熱意とご努力に対し心から敬意を表する次第です。従来の

関東支部「筆山」 関西支部「なんぷう」 広島支部「青春」

それに昨年創刊の東海支部「わかしゃち」に今回の本部会報「向陽」を加えての、広報ネットの揃い踏みは正に壮観であり、改めて心からお慶びを申し上げます。学校といたしましては本部会報活動を軸とする素晴らしい広報ネットの恩恵を学校活性化に向けて大いに利用させて頂きたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

さてここで一点に限って校務報告とお願ひをお許し頂きたいと存じます。既にご承知のとおり、いよいよ平成二二年には本校創立八十周年の大

きな節目を迎えることとなります。同窓会本部におかれましても、ふさわしい記念行事等の計画を持たれているとは存じますが、学校としましてはこれを飛躍への希有の好機と捉え、振興会にも協力を願ひ、意義ある行事に仕上げるべく取り組みを開始したところであります。平成一二年から翌一三年にかけて記念誌の発行、記念式典を含む諸行事の実施、更には例えば情報教育や体育関連部門の施設充実、環境整備事業の促進等、具体的計画に入っておりますが、何れをとりましても、同

窓会の皆様がたの強力にして積極的なご支援なくしては成り立たないものばかりであります。今後、計画の進展に伴って会長さん外会員先輩の皆さんがたには大変なご助力をお願いすることになるうかと存じますが、翌年からの二一世紀にふさわしい、そして冠する土佐の名に叶う学校づくりを成就する為にも何とぞ暖かいご協力の程お願いいたします。重ねて本部会報「向陽」の発行をお祝い申し上げ、今後の充実、発展をお祈りいたします。

いあいさつ



土佐高等学校理事 宇田 耕也

此度土佐高同窓会本部会報が創刊され、同窓会が更に活躍の場を拓げられた事を、心からお慶び申し上げます。今世紀も後僅かを残すのみとなりました。学校に於きましても、この節目に、今日迄を振り返ると同時に新しく迎える二一世紀にあつて、どの様な教育が求められるのか、又そ

れに対応出来る為にはどのような理念とビジョンを定めるべきなのか真剣に考えてみようとして居ます。

我々の課題には、大学進学という問題もあります。大学進学は教育の中にあつて、目的であつて目的ではない難しい課題の一つではないかと思ひます。この二〇年間では、国立大学上位16校、私立大学11校、計27校をとつてみた時の1校についても高知県で土佐高を上回つた学校はありませんでした。ただこの一〇年程東大への合格数のみを比較して、土佐高が駄目になつたのでは、とのご心配も時々耳にしますので、次の御報告もさせて戴きます。

この二〇年間では、確かに土佐高127人、G高115人と土佐が多く合格者を出して居ますが、ここ一二年間を比較した時、前半(S62~H4)の六年間では、土佐高41人、G高49人と8人G高が多く、後半(H5~H10)の六年間では土佐高26人、G高37人で一人G高が東大へは多く合格者を出して居ます。然しその他の大学を同時に併せて比較した時、例えば京都大学の合格者を併せた時、前半で京大へ土佐高35人、G高29人で、(東大+京大)数は土佐高76人、G高78人となります。後半H一〇年迄の六年間では、京大へ土佐高45人、G高13人で(東大+京大)数は、土佐高71人であるのに対し、G高

は東大数では土佐高を11人上回つて居るものの、(東大+京大)数では50人と激減して71人の土佐高に21人も差をつけられる結果となつて居ます。この一〇年土佐高では、東大の人氣が失われ、京大の人氣が上昇して居ます。

年前なら、土佐塾の生徒の大半が土佐中へ進学した事を考えれば、現在の土佐高の各大学への進学数は、クラスの定員減もあつた中で、理論値を遙かに越えた良い結果を出して居ると思ひます。少なくとも現在の時点では、東大のみ合格数を比較しての議論は成立たないと考えて居ます。然し国技の大相撲でも横綱大関と下位との力の差が亡くなつて居るのが世の流れです。二一世紀に於いても全国にも数少ない良い学校を目ざし、努力する所存でありますので、同窓会の皆様にあつても、今後共更に宜しく御指導御鞭撻下さいませ、心から御願ひ申し上げます。

これは東大に限らず、医科系の高知医大に対しても前半一〇年の185人に対して、この一〇年は100人と減少傾向にあります。G高にも前半112人が後半50人と高知医大については同じ傾向が見られます。

後半の六年間には、新しく出来たT高も参加し、東大へ23人、京大へはG高を1名上回る14人を、高知医大へは22人を合格させて居ます。一〇

中学校とのギャップがあまりにも大きく、自分の実力はこの程度だったのか、とかなり落ち込みました。「編入生だからやらなくては」という気持ちだけが先走りして、正直言つて学校を辞めようかとも考えました。夏には完全に立ち直りましたが、高一の一期は精神的につらいものがあ

若き卒業生のメッセージ

毎年六月の保護者会で配布される「進学の手引き」。過去の大学受験に関するデータ、受験スケジュール、進路選択のアドバイス……、いろいろな情報の最後を飾るのが「合格体験記」。近年は「浪人合格記」や「不合格体験記」と豊富なヴァリエーション。さまざま変りした現代受験事情と変わらぬ土佐高生のありようを過去三年の体験記から……。

地道に基礎の積み重ねを

中城由賀・70回生

(明治大・政経、高知大・人文、松山大・経、東京経済大・経、専修大・経、日本大・経)

入学当初は「編入生」というコンプレックスにがんじがらめにされていた気がしますが、まず数学につまづきました。

まず数学につまづきました。

受験が近づいたと思ったのは、県体が終わってからです。英語が得意でなかったのが基礎レベルの文法参考書をやり始めました。この時期から始めて間に合うのか不安でしたが、受験までに5回やることができました。また速読は声を出してやりました。これは単語・熟語と一緒に勉強できました。それとこまめに辞書を引きました。日本史は史料や図表を切り貼りしたノートを作成しました。このノートは受験時にたいへん心の支えになりました。作成した後からも問題をやっていて知らなかった事項にぶつかれば、どんどん書き込んでいきました。今ではちよつとした宝物です。私は夏休みに作成したので大変でした。作成される方は高二の冬あたりから始めればよいと思います。国語は現代文・古文・小論文の添削を先生にお願いしました。

思います。みなさんも受験の時には自分はこのまでやったんだという自信が持てる勉強をして下さい。あと、赤本は計画的に取り組んで下さい。私は一月の明治大学の判定はEだったので、記念受験のつもりでした。だから赤本を始めたのは二月に入ってからでかなりつらかったです。勉強は本業ですが、土佐高でしか味わうことのできない運動会のホームゲーム、やぐら作り、向陽祭、クラスマッチは思い切り楽しんで下さい。

基礎力をつけるのが一番

戸梶 涼・71回生
(東宮大・文)

合格のために一番確実に早い方法、それは勉強することです。たとえ格好悪くてもがむしゃらに勉強することです。地道な努力こそが最後にはものをいいます。私は受験勉強の中心は基礎力を身に付ける事だと思っています。基礎力を付けるのにいちばんの方法は参考書を使うよりも教科書を利用し尽くすことです。難易度が適当な上に授業の予習にもなるから

です。英語／教科書の分からない単語を調べて自分なりの訳を作ってみる。スムーズに読めるようになるまで何度も音読する。数学／教科書をずっと先の方まで目を通して問題を片っ端からやってみる。とにかく数をこなすことが重要。国語／現代文はとにかく多くの本を読んで表現法や単語に触れておくこと。古文は教科書の文をひたすら品詞分解して訳してみる。漢文は教科書の文を全てリズムよく読めるようになるまで繰り返し音読すること。理・社／授業をしっかり受けること。できれば授業前に当日やる部分を教科書で読んでおくことが望ましい。このようにして基礎力がしっかり身につけばしめたものです。応用力はいろいろな先生に添削を頼んだり模試をたくさん受けたりして補って下さい。特に添削は基礎力から応用力まで幅広く対応できま

すから積極的に活用するべきだと思います。後は志望校の赤本をしっかりとやっておけば実践にも充分対応できると

一卒業生のたわ言

片岡 聡・71回生
(九州大・理、立命館大・理)

思います。みなさんがいる所はまだ道の途中です。受験までにはまだ勉強する余裕はかなり残っています。だから焦らないで地道に、しかし着実に努力を続けて下さい。みなさんのしている勉強は決して無駄ではありません。高三の頃「受ければ何とも言えるわ。」などと思いがら読んでいた合格体験記を自分が書くことになろうとはそこで、思った事を簡条書きにすることにします。○中学生へ……本を読むこと。ジャンルはなんでも良い。できれば長編を読むこと。勉強は英語に重点を置き、理科・社会の科目の中で自分の一番好きな分野を見付けること。○高一・二生へ……少なくともテスト前は勉強すること。この時期は受験を意識しろというのは無理だと思おうので、毎回毎回のテストを目標にした方が勉強しやすいと思う。○高三生へ……受験の情報を集めること。それには本屋へ通うと良い。勉強についてはまず心構えをしっかりとつこうとが大事だと思う。「学校へ行けば何とかかなる。学校が何とかしてくれる。」と思うのは大間違いだ。○参考書……誰にでも良書だと思える本はない。自分で気に入った本を使えば良い。○模擬テスト……復習しなければ受ける意味なし。○センター試験……「センターで失敗しても二次でとるからいいや。」と言う人がたくさんいる。しかし、センターで失敗すると、何ともならない。第一志望に出願さえも出来なくなる。○私大……国立第一志望者も一つは受けると良い。受けに行くと周りに知った人がいないので二次の練習になるし、もし受ければ、心にゆとりができる。○二次……暗記よりも考えること。赤本は全部やること。(古い年から新しい年へ)そして、最後まであがくこと。○塾・通信……学校で先生に聞くと、たいいていの事は教えてもらえるので塾へ行く必要

はないと思うし、勉強する気がないなら行っても意味はない。通信はZ会より進研ゼミの方が解りやすいと思う。

○大学生生活……大学生は暇なものだと思っていたが、理系はかなり忙しい。文系は週休五日も夢じゃない。

○土佐高……「土佐は自由な校風である。」とよく言われる。「自由」とは何でしょう。一度、考えてみてください。

以上の様に、まとまりもなく偉そうな書き方になってしまいました。一卒業生のたわ言として読んでもらえたら幸いです。

僕の大学受験

山本浩一郎・72回生

(横浜国立・工)

僕の大学受験は八月からはじまりました。野球部の夏の大会がおわったのが七月末だったので、それまでは全くといっていいほど勉強していませんでした。それで授業中は真面目だったかという、朝練のため、居眠りをするときもあり、必ずしもそうであったとは言えませんでした。では、僕の勉強はどうだった

たのでしょうか。八月中は暑さと、試合で負けた虚脱感から、勉強にも身が入りませんでした。とりあえず進学アカデミーで夏期講習を受けましたが、いきなり受験問題を渡されても全然わからずがく然としました。そこで九月からは復習に力を入れていきました。学校の補習に自分の受験科目を全て選んで、出ることにしました。学校の補習は必ず利用したほうがいいと思います。それはなぜかということ、補習は無料であるということが第一で、その次に、補習の先生はこちらの実力とか、進度をわかっているということがあります。この土佐高という氣質をわかって教えてくれるので復習+演習を効率よくおこなえると思います。

センター試験が近づいてくると皆センター試験の方に重点をおいていくと思います。そのときに二次のことをまったく考えないと、センターはよかつたけど二次は……ということになります。僕はセンターよりも二次重視の大学を選びました。そのおかげで学校平均よりもセンターは下だったけど、希望の学部は後期

試験で入ることができました。上で書いた「希望の学部」というのは「希望の大学」というのより重要だと思えます。自分が何をやりたいのか考えることは難かしいかもしれませんが、自分の興味あることを探して、それをもとに大学を選んでみてください。そうして選んだ大学は、本当に入ってからよかつたと思えるようになります。

偏差値40からの大学受験

五百蔵和雅・72回生

(立命館・文、高知・人文、追手門学院・人間)

僕は、みんなにアドバイスするほど真面目な土佐高生ではなかつたので、合格体験記を書くのは、あまり気がすまなかつたんですが、あのときの僕のように、伸び悩んでいる人たちには、僕のした受験勉強は、参考になるのではと思ってペンを取りました。

僕は中学の頃から、高三の春まで定期試験でも実力テス

トでも、いつも底辺を遣いずりまわっていました。当時(高三の一学期)の僕の偏差値は、40を切ることもしばしばだったのです。そこで、自分の成績でも行ける大学はないものかと思ひ、いろいろな大学の資料を見ているうちに、立命館や、中央、関大といった、有名私大に行きたいと思いはじめ、両親に相談しました。すると、父に、「受験料をドブに捨てるようなもんだ。」と言われ、カチンときた僕は、一念発起したわけですよ。

その時から僕は、これまでしたことないくらい勉強しました。一日10〜15時間はあたり前でした。夏休み中死ぬほど勉強して、一〇月か十一月

くらいには、40だった僕の偏差値は、60ちかくまで上がっていました。なんでそんなに勉強したかという、もちろんくやしかつたというのが大きな理由ですが、やはり、明確な目標があると、気合の入りがちがいます。

そしていよいよ入試がはじまりましたが、前期で受けた大学は、ことごとく失敗に終わりました。その時期、不合

格だった友達は、みんな浪人を決めていましたが、僕はどうしてもあきらめきれず、倍率が二〇倍以上という後期試験を受けました。すると、何と後期で受けた関大と立命は、両方とも合格していたのです。そして唯一前期で合格していた高知大を蹴って、第一志望だった立命に来たわけです。

さて、こんな僕が、みんなに送るアドバイスは二つあります。一つは、早く目標を決めることです。きちんとした目標があると、とても意欲が湧きます。僕は受験は、精神力が勝負だと思ひます。必ず来る中だるみの時期に、きちんとした目標がある奴とない奴では、とても大きな差がでます。

二つめは、決してあきらめないということです。一二月でEではこまりますが、一回でもDが出ていけば、とりあえず受けてみるべきです。チャンスがあれば、後期でも何でもやってみてください。倍率の高さにびびってあきらめるなんてブーです。終わってみれば一年なんてすぐです。大学はええで——。

平成10年度

大学入試のまとめ

大	学	現	浪	計	進学
国立					
北	海	3	1	4	4
茨	城	1	1	2	1
筑	波	4	4	8	3
埼	玉	2	2	4	1
千	葉	1	1	2	2
お	の	1	1	2	2
東	水	4	1	5	5
東	京	4	1	5	4
東	学	1	1	2	1
東	農	1	1	2	1
東	工	1	1	2	1
東	商	1	1	2	1
東	産	1	1	2	1
電	信	1	1	2	2
一	橋	1	1	2	1
横	立	1	1	2	1
信	州	1	1	2	1
新	法	1	1	2	1
名	星	1	1	2	1
岐	武	2	2	4	4
三	野	1	1	2	1
滋	明	1	1	2	1
京	立	2	1	3	3
京	早	6	1	7	7
都	稲	1	1	2	1
都	麻	1	1	2	1
都	神	1	1	2	1
大	東	1	1	2	1
大	昭	1	1	2	1
大	和	1	1	2	1
大	愛	1	1	2	1
神	南	3	1	4	4
島	京	1	1	2	1
島	都	1	1	2	1
岡	都	8	2	10	10
山	京	4	4	8	4
山	同	1	1	2	1
徳	志	1	1	2	1
愛	命	4	1	5	5
香	龍	3	3	6	3
香	追	1	1	2	1
高	大	9	5	14	11
高	大	5	12	17	17
官	大	1	1	2	1
鹿	大	1	1	2	1
丸	関	1	2	3	3
計		77	47	124	114
昨	年	96	49	145	125
公立					
高	崎	1	1	2	2
東	京	6	6	12	5
横	濱	1	1	2	1
都	留	1	1	2	1
都	文	1	1	2	1
東	立	2	1	3	1
京	立	1	1	2	1
静	立	1	1	2	1
滋	立	1	1	2	1
都	立	2	2	4	2
大	立	1	1	2	1
大	立	1	1	2	1
神	立	1	1	2	1
戸	立	1	1	2	1
山	立	1	1	2	1
岡	立	1	1	2	1
下	立	1	1	2	1
高	立	2	2	4	2
計		17	9	26	19
昨	年	11	6	17	15

文武両道 ~今年の実績~

受験実績と今年の「おすすめ」クラブ!

[高校県体]

バドミントン…団体優勝

個人複優勝・準優勝/単優勝・準優勝

登山…優勝

テニス…男子団体 2位/男子ダブルス 4位

ハンド…3位

柔道…個人81kg級 2位/個人90kg級 2位

卓球…男子シングルス ベスト16/女子シングルス ベスト16

女子ダブルス ベスト8

陸上…100m 3位4位/200m 4位/400m 4位

400mH 1位

男子400mリレー 2位/1600mリレー 4位

女子400mリレー 4位

自転車…個人 エリミネーション 2位

水泳…男子 1500m自由 1位/400m自由 1位

女子 50m自由 1位/100m自由 2位

800m自由 3位

[中学市体]

テニス…女子団体 優勝/女子シングルス 準優勝

バスケットボール…男子 優勝

サッカー…準優勝

陸上…男子 800mリレー 1位/400m 1位/100m 1位

水泳…男子 総合優勝/400mメドレーリレー 2位

400m個人メドレー 1位/200m個人メドレー 1位

200m自由 1位/50m平 2位/50m背 1位

50mバタフライ 2位

[その他]

高校野球…春季大会 準優勝

事故にもメゲず
がんばっています

一昨年八月に遠征中の大阪府で雷に打たれ、重傷を負ったサッカー部の北村光寿君。懸命のリハビリですいぶん回復してきました。この間、保護者の方々、同窓の皆さんからは大変なご支援をいただきました。ありがとうございました。本来なら高校三年生ですが、現在の籍は事故に遭ったときのままの高校一年生。回復したとはいえ、目は不自由ですし、車椅子での生活です。でも、がんばる気持ち一杯で、先日から短時間で登校し、授業もつけるよう

になりました。生徒達も一杯応援しています。これから励ましをお願いします。不幸な事故は今年三月にも中一の桑名秀輔君が徳島県で交通事故に遭い、一時は生命も危ふまれる状況でした。一緒に事故に遭ったお父さん(48回生)は「足早く回復しましたが、内臓をやられた秀輔君は現在も懸命のリハビリ中です。命の重さを感じつつ、在籍の中学二年生を中心に、全校が回復を願っています。不幸な事故がこれ以上続かないことを祈るとともに、たくましく再起を図ろうとしている北村君、桑名君への一層のご支援をお願いします。

大	学	現	浪	計	進学
私立					
青	山	4	1	5	1
山	学	1	1	2	1
大	妻	2	1	3	1
学	習	3	1	4	2
北	杏	2	2	4	1
杏	林	1	1	2	1
立	林	2	2	4	1
慶	義	13	7	20	10
慶	塾	1	1	2	3
国	学	1	2	3	1
国	際	1	1	2	1
上	智	2	2	4	1
成	教	5	5	10	5
創	育	1	1	2	1
多	美	1	1	2	2
摩	央	3	8	11	5
中	塾	2	2	4	1
津	東	1	1	2	1
東	京	1	1	2	1
東	京	2	1	3	3
東	京	2	1	3	3
東	京	1	1	2	1
東	京	1	1	2	1
東	京	1	1	2	1
東	京	1	2	3	1
東	京	4	12	16	2
日	本	9	10	19	6
法	政	2	4	6	1
星	武	1	1	2	1
武	野	1	1	2	1
武	美	5	7	12	7
明	教	3	1	4	4
立	田	16	16	32	14
早	稲	1	2	3	3
麻	布	1	1	2	2
神	川	1	1	2	1
関	東	1	1	2	1
昭	学	1	1	2	1
和	院	4	4	8	1
愛	山	2	1	3	1
南	山	3	3	6	3
京	産	1	1	2	1
都	女	1	1	2	1
都	子	1	1	2	1
都	形	1	1	2	1
京	都	4	3	7	1
都	社	9	6	15	6
同	館	14	9	23	2
立	谷	4	3	7	1
龍	門	1	1	2	1
追	医	1	1	2	1
大	院	3	3	6	2
大	学	1	1	2	1
大	術	1	1	2	1
大	業	3	3	6	1
大	業	10	9	19	8
関	西	1	1	2	1
近	畿	1	9	10	2
西	院	13	6	19	4
学	南	6	1	7	3
甲	学	1	2	3	2
神	女	1	1	2	1
戸	学	1	1	2	1
神	薬	1	1	2	1
戸	理	1	1	2	1
神	医	2	4	6	1
兵	山	1	1	2	1
庫	崎	1	1	2	1
岡	医	5	5	10	1
川	山	15	4	19	10
松	工	13	38	51	21
高	他	205	196	401	145
計		205	196	401	145
昨	年	243	184	427	165
短大					
短	大	1	1	2	1
大	学	13	2	15	14
校	校				
専	門				
学	校				
等					
計		313	254	567	292
昨	年	360	247	607	313

高知(私立)

土佐高等学校

報恩感謝の理念のもと
社会に貢献できる人材
を育成

大学受験アルファ

6月号より転載

土佐高等学校は、大正九年(一九二〇年)、報恩感謝の理念のもと社会に貢献する人材を育成することを建学の精神として創立されました。二〇〇年には八〇周年を迎える伝統校として、一五、〇〇〇人を超える卒業生は、国内外、各界を問わず第一線で活躍しています。進路指導部の井上聖香先生にお聞きしました。

先輩諸氏から引き継がれる一途さと集中力を持つ学生気質。

貴校は伝統に培われた進学校として高い評価を得られていますが、その校風と受け継がれている学生気質についてお教えください。

「嗚呼勉めよやくせよや冠する土佐の名に叶え」これは本校校歌の一節ですが、この歌詞にうたわれているとおり、誇り高い土佐中高をより一層発展させるべく、一、六五〇名の在校生と教職員が心を一つにして努力しています。生徒一人一人がその個性を十分に発揮できる学校、様々な能力を持った者がそれぞれに生きていける学校、それが本校だと思っています。先輩諸氏の顔ぶれを見ても、かつて東大のエースとして神宮で活躍し、後に東大野球部監督、現在は工学部長をなさっている岡村甫氏、甲子園でサイクルヒットを達成した玉川寿氏、最近では、直木賞を受賞した坂東真砂子氏、マンガ家の黒鉄ヒロシ氏、七〇才を過ぎて現役の第一線で活躍しているモダンアートの旗手、高崎元尚氏など錚々たる先輩がいらつしやいます。政界では本校出身の国會議員五名が活躍していた時期もありました。将来このように各界で活躍することになる人々が、お互いに影響を与え、あるいは影響を受けながら、一つの校風を醸し出しているのだと思います。

この校風の根幹にあるのは、一途さと集中力ではないでしょうか。学問を重んじ、礼節を尊び、スポーツを愛することを大きな柱としています。小学校でありスポーツをやっていない者も多く、けつこう不器用な者もいます。しかしそんな生徒でも、運動部に入ったり、運動会やクラスマッチで一生涯懸命に取り組んでいます。野球部が甲子園出場を果たすことも少なくありませんが、選手一人一人の能力は決して高くはありません。他校の野球部に行けば選手にはなれない者も多いでしょう。しかし、それを補うのがこの一途さと集中力です。それゆえに奇跡を起こし感動を呼ぶこともあります。また、学校行事などへの思い入れも大変強く、短期間にかかなり質の高いものを作り上げます。特に九月の運動会は、六年間の総決算といった意気込みで徹夜で準備をすることもありますが、運動会は六色に分かれて競い合いますが、各組がそれぞれの応援席としてヤグラを建てます。担当するのは高三ですが、運動場が校舎から離れているので、下級生がヤグラを

見るのは運動会当日です。青空に聳えるヤグラを見て感動する生徒たちを見るのは嬉しいものです。そして、このヤグラを作った高三生の能力とエネルギーに対する尊敬と憧れが次々と受け継がれていきます。こうしてエネルギーが一念発起し勉強に向けられると、卒業や進級さえ危うかった者が、難関大に合格していきまます。このあたりに土佐校気質があるように思います。特別なクラス編成はせず選択科目以外は全員が同じクラスで授業を受けることになっていま

過去5年間の主要大学合格者数一覧

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年
北海道大	3	1	3	1	3
東北大	1	0	7	3	0
筑波大	1	2	3	4	0
東京大	6	5	4	3	3
名古屋大	1	3	3	1	1
京都大	5	2	14	12	5
阪大	10	8	8	5	6
神戸大	7	1	4	12	5
岡山大	13	14	14	14	9
広島大	7	6	7	7	11
高知大	29	35	30	29	26
高知医大	10	7	9	8	9
九州大	2	3	2	3	1
青山学院大	10	14	7	2	5
慶應義塾大	29	16	17	18	15
上智大	6	10	6	5	5
中央大	19	11	4	4	12
東京理科大	23	16	19	18	19
日本大	28	16	12	11	13
法政大	7	7	5	6	7
明治大	18	14	15	9	8
早稲田大	42	26	23	21	24
同志社大	19	12	29	30	18
立命館大	18	20	28	26	34
関西大	20	22	23	24	21
関西学院大	30	28	16	15	16

す。「自分のクラスにこんな凄いのがいた、と言えることが嬉しい」と、ある生徒が話していたのを思い出しますが、そういうクラス編成に誇りを持っていきます。今は十分な力を出していかなくても、やがてその気になった時には変身する生徒がたくさんいます。同窓会に集う面々は、こういう雰囲気のおかげで、いわゆる偏差値の高低にかかわらず、昔話に花を咲かせることができるのです。ここにも土佐の校風、気質をかいま見ることができると思います。

教育課程表

数字は単位数(週当たりの時数)

教科	科目	高1	高2	高3	
				必修	選択
国語	国語Ⅰ	5		3	
	国語Ⅱ		3		
	現代文			2	*3
	古典Ⅰ 古典Ⅱ		3		*3
地歴公民	世界史A・B	2	*3		*3
	日本史A・B	2	*3		*3
	地理A・B	2	*3		*3
	倫理	2	*3		*3
	政治・経済	2	*3		*3
数学	数学Ⅰ	4	3		*3
	数学Ⅱ		3		*3
	数学Ⅲ				*3
	数学A 数学B 数学C	2	3		*3
					*3
理科	物理ⅠB	3	*3		*3
	物理Ⅱ		*3		*3
	化学ⅠB	3	*3		*3
	化学Ⅱ		*3		*3
	生物ⅠB	3	*3		*3
	生物Ⅱ		*3		*3
保健体育	体育	4	3	4	
	保健		2		
芸術	音楽Ⅰ		*2		*2
	音楽Ⅱ		*2		*2
	美術Ⅰ		*2		*2
	美術Ⅱ		*2		*2
	工芸Ⅰ 書道Ⅰ		*2		*2
外国語	英語Ⅰ	6	4		
	英語Ⅱ		2		
	オラルコミュニケーションB オラルコミュニケーションC			3	*2
	リーディング ライティング			3	*2
家庭	生活一般		1	1	
計		33	34	16	10~18

(※1)

(※2)

(※1) 文系志望者は社会科2科目・理科1科目、理系志望者は社会科1科目・理科2科目継続選択。
 (※2) 文理別授業はない。志望大学学部の入試科目に合わせて自由選択科目18科目のうち6科目18単位を限度とし、10単位以上選択学習する。
 (註) 高1、高2はL・H・Rが1単位加わる。

生徒同士の交流を大切に、文理混合のクラス編成を堅持。

カリキュラムの特長について伺いたいのですが。

進路選択は中三の時点で始まります。そして、生徒一人一人の希望に幅広く対応できるように科目選択制をとっています。地歴公民は、高一時に全員が二科目を選択履修し、文理の志望が確定した高二の

段階で、文系は二科目を継続し、理系は希望する一科目に絞り込みます。一方、理科は、一年次には全員二科目を履修し、文理の確定した二年の段階で理系は二科目を継続、文系は一科同様に絞り込みます。六年一貫教育ということ、高二までには一通りのことを終了し、高三では選択科目を多くし、自分の進路にあつた勉強ができるように工夫しています。以上のような選択制

をとっていますが、ホームルーム編成は高三まで文理混合のまま授業を受けます。受験面での効率だけを追求するのであれば、文理、国立、私立のコース別、更には能力別のより均質化されたクラス編成の方が学習指導、生活指導の両面で効果的かも知れません。しかし、様々な方面に進む様々な個性や資質を持った者同士が同じホームで学校生活を共にすることには、受

験の効率よりもはるかに意義深いものがあります。こうした考えから本校ではコース別の能力別のクラス編成は原則的に導入していません。高校から入学してくる生徒には、数学は一年間、英語、国語は一学期間、特別補習を行って、土佐中から上がる生徒との進度のギャップを埋めるようにしています。

これからの課題という点については、どのように捉えていますか。

三年間という短期間で一つの結論を出さなくてはいけない進学校としては、先程述べたような効率が悪い面があることは得策ではないとも言え、常に工夫をしていく必要があるでしょう。また、学習指導の原点は初代校長の三根円次郎先生(今は亡き歌手ディック・ミネ氏の敬父)の方針『土佐中学校に於いては奴隸的強制勉強、詰め込み主義は極力之を排撃せり。土佐中学校の猛勉強は一に先生の熱意と職員生徒の感奮と相映発せるものにして最も自主自発的なものなり、強制去れば直

ちに消えるが如き類に非ず、従つて生徒の勤勉力行は終身渝わらざる第二の天性となれり。』をモットーとしていますが、この本当の意味での自主自主の気風が少なくなっています。放っておくと力が落ちるのではないか、との老婆心からつい手を出してしまう。与えられると生徒も頼ってしまう。そういった悪循環を断ち切り、自分でやっていくことの喜びを教えていくことも今後の課題です。

今年の主な国公立大の合格数は、北大4、東大5、京大7、高知医大14でしたが、大阪、神戸、岡山あたりで十分な結果が出せなかったのは残念なところ。また、高知大では、県外から流入してくる勢力に対抗しきれなかった感もありません。土佐高校に來れば、少なくとも地元の大卒には合格できるという安定した力をつけるために、中堅層の充実、下位層のレベルアップと課題はまだあります。

どうもありがとうございます。

振興会の動き



前会長
田村 恭昭

前会長

土佐中学校・土佐高等学校が困難に直面した時に、振興会が動くと言われています。このように土佐中高振興会は強力な後援団体として昭和二年四月二日に設立されました。西山利平会長が勇退の後、平成四年四月に会長に就任いたしました。私は土佐高等学校の大学進学率の低迷を

由々しき大事と考え、振興会活動を活性化し、母校の発展のために学校長をはじめ先生方との会話を続けてきました。困難な遅々として進まない歩みでありましたが、その甲斐があり、少しずつ進学高としての土佐高の活性化の気運が盛り上がってまいりました。土佐高の進学率の向上は、生

振興会組織

徒のために、学校のために、振興会会員、土佐高を母校と仰ぐ同窓会会員の発展のためには不可欠なことであります。土佐中学校・土佐高等学校はいつまでも「冠する土佐」でなければなりません。

(平成一〇年六月一日現在)

会長 北島清彰

副会長 (広報委員会) 小谷匡宏

副会長 (進学委員会) 高野嶺子

副会長 (総務委員会) 射手典夫

監事 二山孝司

監事 高木いずみ (高三)

本部役員 毛山 彰 (高二)

本部役員 野崎りつ (高一)

本部役員 高山 寛 (中三)

本部役員 浦田健二 (中二)

本部役員 国見直樹 (中一)

各支部より支部長と副支部長 (計二名) が振興会本部評議員となっております。

■広報委員会

(委員長/小谷匡宏)

広報誌「向陽の空」の編集中です。第二号は土佐中高等学校卒業生の群像特集号とする予定です。

土佐中高の授業に対するアンケート調査を検討中です。

■進学委員会

(委員長/高野嶺子)

毎年六月に進学に対する講演会を生徒、保護者を対象として開催しています。今年は六月二三日(火)に土佐高会議室で開催しました。

■総務委員会

(委員長/射手典夫)

振興会の会則変更、議決件を支部長会と臨時総会にする。役員数の変更。支部総会の統合などに取り組んでいます。

振興会の活動状況

目標 進学校である土佐中等学校の活性化をはかり、大学入学率を向上させる。

敗戦前後の土佐中・高

山崎 和孝 (26回生)

●全員入学

一九四五年、間もなく原爆

が投下されるその年に私は入学した。土佐中などという学校があることも知らず、本人

は城東中学(今の追手前高校)を受けるつもりだったが、ある日ひとりの老紳士が現れて父と長時間話し合った結果、私はこの学校に入ることになった。父の話によると、その紳士は青木勘さんと言って少数精鋭主義で徹底した英才教

育を施す中学の校長先生で、県下各地の小学校にいる優秀な児童を一人一人選んで勧誘し、経験豊富な選り抜きの先生方が小人数の生徒をミッチリ指導する方針だという。誘われただけでも名誉なことだという父の薦めに、一人っ子

の甘えん坊で競争や闘争が大嫌いな私は、一も二もなくこの話に乗った。合格発表を見に行ったら受験した九六人全員合格で、少し定員を増やしたことを知った。校舎はオシャレで風格があり、上級生は大人のように

大きくて恐かったので授業のある教室以外には行かなかったが、何かの折りに教練用の模型銃の保管室に迷い込み、暗く冷たい空気に怯えて飛び逃げた覚えがある。教練と言っても分からない人が多いだろうが、当時は毎週陸軍将校がやってきて二年以上の生徒が銃剣術や軍人勅諭などの軍事訓練を受けることになっていた。一年の夏休みに敗戦になったので、私自身は教練を受けたことがない。

分散授業

県下各地から生徒を集めていたので構内に生徒寮があり、放課後校庭にいた寮生がグラマン戦闘機の銃撃を受けたという話を聞いて間もなく、七月四日未明の空襲で高知市内は丸焼けとなった。学校も店も自宅もなくなり、出産のためかねて疎開していた母と合流して一家全員が香美郡片地村で暮らしていたところ、学校から通知がきて勉強を再開すること、我々は二年生とともに夏休み中の山田小学校を借りて授業を受けた。疎開先は今では土佐山田町に合併されている片他村間（ハザ

マ）だから飯教室まで歩いて一時間足らず、恐らく通学には恵まれていた方だろう。西野先生が手書きのガリ版印刷で与えて下さった教材は大町桂月の紀行文。日光から奥日光にかけての風光を活写した名文はリズムがあつて美しく、初めて文章の魅力に触れて感動した。

いつまでも小学校を占拠するわけにはいかなかったので一年生は尾川村へ移った。佐川から木炭バスで小一時間入った山の中で、農協の二階が教室兼教室。夜は持参の蒲団を並べて眠り、昼は蒲団を片付けたスペースに座つて授業を受けた。畦地久寿馬先生の芋と庇の関係についての解説や岡一郎先生の英語など授業は面白く、親切だった農協の小母さん、みんなで汗をかいた山からの新運び、村役場の門前で聞き耳を立てても良く聞き取れなかった敗戦の詔勅など、思い出は尽きないが今あの場所はどこな風になっているのだろうか。

校舎建設

仁井田辺りにあった旧兵舎の払い下げを受け、焼け跡に

校舎を再建するというので我々も手伝わせて貰った。板や柱を持ち運ぶのは重かったが、湾上の風は涼しく、上級生の話は面白く、棧橋から大型の櫓舟で仁井田に渡る船旅は楽しかったし、瓦を屋根に上げる瓦リレーは活気があつて気分が高揚した。

クラブ活動

二年の終わりに六・三・三制が施行されて私は新制中学三年となり、新人生として一挙に二百を越す少年少女を迎えた。知的で美しい女の子達は照明不足の校舎を明るくした。

受け持ちの富田俊夫先生が野球部を計画され、二年上の江湖忠廣先輩や掛水俊彦先輩、一年上の西岡政雄先輩や門脇稔先輩とともに我々も誘われて入部した。山村泰造君・坂本寿康君・川田隆君等は多少の素質に恵まれていたようだ。他校には一日の長があつて対外試合は連戦連敗、その弱い土佐高野球部にあつて球拾いしかさせて貰えなかったのだから、私の野球センスのお粗末さは酷いものだ。急にクラブ活動が活発化し

て高塚準一郎君は演劇部、岡信至君は文芸部、私は山崎正夫君の薦めで一年下の岩谷君を語らつて新聞部を作った。顧問に伊賀千人先生を迎え、向陽新聞と名付けて磯江順藏君に題字を描いて貰った。東大や京大の新聞部室を訪ねたり、市内各校と合同会議を開いたり活発に活動し、高知新聞の藤崎和之記者も指導に来てくれたりしたものだ。今は休部とか、淋しい限りだ。

鎮西忠行先生の指導で絵が好きになり、高一・高二と油絵が県展に入選したが、その鎮西先生の薦めで絵画部を作った。だが新聞部が忙しく、発行直前には授業を抜けて印刷屋へ走らねばならぬ程だったので、絵画部の部長は下級生にお願いした。随分人気があり、盛大なスタートだったが今も盛んだらうか。

西内満夫先生から英語のコースをやろうと熱心に口説かれ、ついその気になってこれもやってみました。クリスマスソングやフォスター民謡の混声合唱は楽しかった。久しぶりに歌ってみようかと今日大きな本屋を覗いてみたが、並んでいるのは実用英会話や

TOEIC受験用の本ばかり、英語民謡の合唱の本は一冊もなかった。さすがすした世相を映しているのだろうか。

西岡瑠璃子さんのパンフレットに放送部のことが出ていて、大運動会の実況放送をさせて貰ったのを思い出した。「父兄も来ているので実況を解説すべきだが、スタートしたばかりの放送部は下級生の女子ばかりだから嫌だ」とお前が代わりにやってくれ」と松浦勲先生に頼まれてマイクを握ったが、後で聞いたら早口過ぎて聞き取り難かったそうだ。拡声器を通すときはゆつくり話さねばならぬものらしい。今はマイクの性能が向上しているからそうでもないだろうが……

向陽の使命

紙面の都合上駆け足の回想となった。これをきっかけに読者の皆さんから色々な思い出話をご投稿を頂き、この欄を大きく膨らませて学校と窓生を結ぶ絆としたい。別項にある校内事情と合わせて母校の明るい未来への一助となれば、本紙の使命を果たせるかと思う。

戦地からの軍事郵便

坂本 隆 (47回生・社会科)

土佐中学校の卒業生・教職員のうち、先の大戦で尊い命を亡くされた方は四一名を数えます。戦死三六、戦病死四、自決一。(土佐中・高同窓会「会員名簿」記録による)

この中で、同窓生であり、同時に現職教員として教壇から戦地に赴かれた方は、お一人です。

中澤薫、第4回生。昭和二年に土佐中本科四年を修了し、旧制三高文科乙類を経て東京帝大西洋史学科を卒業。その後、昭和一二年から同一七年七月に補充兵召集を受けるまで、途中家業の薬品会社の支配人として教壇を離れられた一年間を除く五年六カ月の間、土佐中で後輩たちに地理・歴史を教えられた、博愛熱情の先生でした。

中澤先生があふれる愛と情熱の師であったことは、活字となつて多く残されています。例えば「創立五〇周年記念誌」に、17回生の山本敏雄氏は、——我々二・三年に亘つて主任であり、教育・感銘を受け

智恵のかたまりのような大きい頭の先生が唾を飛ばしての大熱演は今もありありと目に浮かんでくる。——

と回想されています。この熱血先生が、昭和一七年七月、高知県出身者を主力とする歩兵第二三六連隊の補充兵として、朝倉の第四四連隊の留守兵舎で防疫注射を受けたあと

坂出港から乗船し、揚子江岸に上陸したのです。この時、中澤先生、三二歳と一カ月。翌月八月一日が先生三三歳の誕生日でした。勿論、二等兵です。三〇歳を過ぎた中澤先生には、他の補充兵の方と同様、若い現役兵とは比較にならないご苦労があったことでしょう。

郷里に妻・清子夫人をはじめ三人の愛児を残し、愛する土佐中生と涙の別離をしての出征でした。ただ、戦地において先生は、直属中隊長・安村八郎中尉の指示であったか、9回生の後輩で、当時大隊本部付将校であった示野昇中尉の配慮によつてか、前線の戦闘要員ではなく、所属中隊から抜擢されて、大隊本部の消耗品管理の主任の任務に就いていたのでした。戦友として

当時先生と苦楽を共にされた山岡俊郎氏(87歳)は、「作戦部隊と比べて比較的自由な時間を持てた忠防勤務では、薫さんはよく内地に手紙を書いたり、風呂敷包みに溢れるほどの本を読んでおられましたよ」と懐かしそうに話して下さいます。

私の手元に、一枚の軍事郵便があります。宛名は「京都市左京区吉田下大路町二十井上様方 田邊善丸 君」

昨年七月一二日に亡くなられた田邊^病院の前院長先生(18回生)宛ての葉書です。出し主は、

「中支派遣第一四七野戦郵便局 気付 鯨第六八八四部隊 温品隊 中澤薫」

「拝復 御便り有難う 嬉しく懐かしく読みました 仁術の医師たらんと決意は何よりです、必ずしも現地に掛付けなくても憐みの深い良心的な医師の働き場処はいくらでもありませう、唯「仁術の医師」の初一念を貫くことは随分難しいことですよ、名利を捨て、生きる決心を守り抜くことは実に寂しいことですよ、併し僕は自分の教へ見の中から一人でも二人でもさうした

人物が出てくれ、ば、我が生涯は無駄ならずと思つておます。おおいなる感激を以て之を記す」

これは、田邊善丸先生がまだ下宿生の頃、京都から戦地の中澤先生に対して、悩んだ末に医学を志す決意をした旨を告白された手紙への、激励の返信だったのでした。田邊先生は、亡くなる直前、中澤先生の遺稿集「孤愁」の間にはさんでしまつてあつたこの葉書を、さも宝物のように大切にされながら、恩師への思慕を抱きつづけておられました。

他界される二時間程前、中澤先生との二人だけの秘密のお話をうかがうことのできた私には、その時の田邊先生は、実に嬉しそうに童心に戻られて、かけがえない温かな師弟関係の思い出の中に、穏やかにたゆとつておられるように見えました。

今私は、心眼の校長・三根圓次郎先生にその源を發し、中澤・田邊両先生の師弟愛に象徴される、土佐校教育の原点を追求したいと念じています。

同窓先輩諸氏のご教授を心から熱望するものです。

大の勉強家で、

本部会報発刊によせて各支部から



関東支部

事務局長 鶴和 千秋

(41回生)

同窓会の皆様、お元気で活躍のことと存じます。此の度は同窓会本部から待ちに待った会報が発行されるはこびとなりましたこと、関東支部一同、心よりお慶び申し上げますと共に、担当される幹事の皆様のご苦勞に心からの感謝の意を表します。

昭和二〇年代、三〇年代潮江橋の下を流れる鏡川では、橋脚から「シューピン」する少年が沢山見られました。そういうえば雑魚場橋のあたりで揺れていた青のりは今もまだ岸に干されているのでしょうか。天神橋の袂の「大クス」

の木は元気で麦藁帽子の子供達を夏の陽射しから守っていますか。一面の田圃の中にポツンとあつた「新グラウンド」は、今や家並みの中に開い込まれていくようですが、この春開局した「土佐高ホームペーじ」によれば、伝統の運動会の櫓は健在のようです。ね。補習やクラブ活動で、帰りの遅くなった当時の欠食児童達への憩いの場は、「一心」や『太助』といった老夫婦の営む大衆食堂でした。今の土佐高生はどこで青春の気炎を上げているのでしょうか。

か。

関東一円には、そんな昔をつい昨日の事のように懐かしんでいる同窓生が約二六〇〇名、構造不況に喘ぎながらも土佐中・土佐高の卒業生である誇りを胸に、それぞれの分野で頑張っております。この創刊号と時を同じくして、関東支部では支部名簿第三版を発行致しました。機会がありましたら懐かしい名前を探してみてください。また関東在住の同窓生の情報ございましたら、ぜひご一報下さい。

ところで関東支部では去る五月二三日、渋谷区代々木のオリンピック記念青少年総合センターで恒例の関東同窓会を開催し、岡村同窓会長、岡内幹事長はじめ各支部からのご来賓の方々のご臨席とご挨拶を賜りました。母校からは森本教頭先生にも駆けつけて頂き三〇〇人近い同窓が参集し、ひと時土佐弁で久闊を叙し、ビンゴゲームや福引きに笑い興しました。懇親会に先立つ支部総会では、カシオ計算機常務取締役の羽方将之氏(38回生)から「技術と経済の活性化」というテーマで、永年企業の第一線で技術革新

に取組んでこられたビジネスマンの目から見たベンチャービジネスと日本経済の今後につき、鋭い講演をしていただきました。お話の最後に南国市久礼田にあるカシオ高知工場を核に四国を「液晶アイランド」にするというヴィジョンを披露され、オラが故郷の未来に明るい夢を投げかけて下さいました。

この関東同窓会には、毎回その年に初めて関東にやってきた新人を招待し、多くの先輩との交流を深めてもらっています。今年も五〇名を超えるフレッシュマンが参加し、その若さで大いに宴を盛り上げてくれました。

関東支部では、同窓の絆を次々と若い世代に繋いでいきながら、本部の皆様のお力添えをもいただき、土佐高同窓会を途切れる事のない「ひとつの流れ」として二一世紀へ引継いで参りたいと願うと共に、母校の大いなる躍進をお祈り致しております。今後とも宜しくご指導の程お願い申し上げます。

関西支部

支部長 永野 二元玄
(29 回生)

こちらは関西支部です。日頃より同窓会本部、母校ほか関係の皆様方からご支援、ご協力戴きまして有難うございます。

このたび本部の会報が創刊されることになった由、おめでとうございます。脈々と続く母校同窓生の熱い血をつなぐパイプラインができることよって、色んな面で新たな発芽や展開が生まれ出てくることにつながって行くことでしよう。年月を経て、遠くにいるとどうしても母校への熱い想いが薄れがちですが、本拠地発信によるメディアの効能は大層大きいものになると期待しています。

関西支部は現在把握できている会員数が約一二〇名です。主な行事をご紹介します。支部総会・懇親会を開催しています。ここ数年は大体一〇

〇名から一二〇名程度の参加者で推移していますが、参加率向上に努めて参りたいと考えています。支部だよりとして会報「なんぷう」を発刊し、

これまで18号を数えています。この種活動はそれぞれ繁忙なお仕事の傍ら労力を割いて下さる世話役の方々のお陰で成り立っており、ご苦労をかけている次第です。先にも触れましたが、行事への参画意識をもっと拡大するため、各年

代層を区切って学年(年代層)幹事を置いて呼びかける仕組みにしたいと考えています。その意味でもこのたび本部会報がスタートすることは大いに母校意識を甦らせて頂けるものと思います。

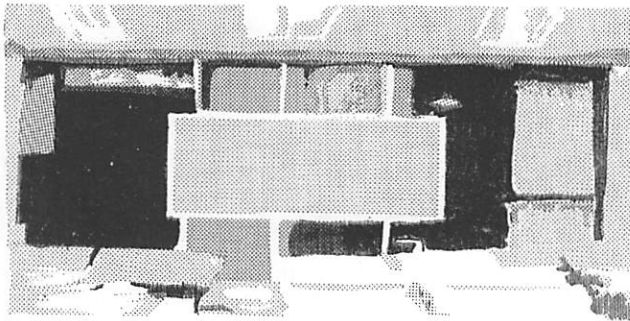
当支部の事務局が今般変わりました。永年に亘りお世話頂いた竹原さん(28回生)に代わって木下さん(31回生)に事務局長をお願いすることになりました。本部、各支部お世話役の方々に種々お世話になること存じますが、どうかよろしく願います。

野球なら甲子園球場はひざ元。他の種目ともども栄えある出場を果たして貰い、奉加帳を持って走り回る機会を与

えて頂きたいと思っっているのは私どもだけでないの言うまでもありません。

本部の同窓会に岡村会長を迎えられ、メディア関係の拡充などを含め大きく変貌しようとしているように感じられます。ご指導下さいますようよろしく願います。

会報創刊号によせて当支部としての祝意と紹介とさせて頂きます。以上



東海支部

支部長 松崎 正雄
(28 回生)

古里のことは一日も脳裏から離れたことのない私ですが、本部におかれましてはこの度、機関紙「向陽」を創刊される由、本當にうれしい限りです。

この「向陽」が一万五〇〇〇人の卒業生の心の絆として、大きな役割を果たされるものと心からご期待申し上げます。さて、当支部は高知への空の直行便もない昭和四〇年頃、10回生故生野先輩を中心に年次を越えた酒呑みのグループとして生まれ、四五年に「名古屋土佐高くらぶ」へと成長し、平成元年に本部のご指導のもと「東海支部」として認められ今日に至っています。

主な行事は、五月と十一月に開催します懇親会と会報「わかしゃち」の発刊です。去る五月一六日(土)には、浜田教頭先生を始め同窓会各支部の役員の方々にもお越しいただき、和気あいあいななか

で総会・懇親会を終えました。秋には、いつも名古屋の「ねほけ」でお世話になっております。

ところで、高知では橋本県政・松尾市政の舵取りよろしく、高速度道路の延伸、工科大の開校などハード面だけでなく、高知市の中核市へのいち早い昇格、県民意識の改革など県土のダイナミックな動きがひしひしと感ぜられ、まことに頼もしい次第です。

いっぽう、当地では二〇〇五年の日本国際博の開催決定が契機となり、地域の発展に大きな弾みがつきました。これに間に合うよう中部国際空港や関連する都市高速度の建設も着々と進んでいます。また、名古屋の表玄関である駅前に二〇〇〇年春には、JR東海の五三階建て(二四五米)の超高層ビルが完成します。加えて、リニア新幹線の建設、関西地方のバックアップをえた首都機能移転候補地をかかえるなど、東海地方は二一世紀初頭には大きな飛躍の年を迎えそうです。

それでは、母校の一層のご健闘と同窓会の変なご発展を心からお祈り申し上げます。

広島支部

事務局長 小島 一洋
(31回生)

同窓生で広島県内に約一〇〇名山口県内に約二五名の同窓生が在住しています。

三、広島支部事務局の所在地は次の通りです。
〒739-0401

広島県佐伯郡大野町

福面二の二の二

TEL 0829-56-1659

FAX 0829-56-3752

事務局長宅(小島一洋)

〒730-0034

広島市中区新天地

二の四

四国銀行広島支店内

TEL 082-247-4321

FAX 082-247-1542

四、広島支部としてはお陰様にて本年一月に一〇周年記念総会を迎えさせて頂きました。

五、平成一一年総会は一月二三日(土)を予定しております。またその他に毎月第三木曜日のアフターファイブに自由参加の形で《青春の集い》の名のもとに小料理店「梅太郎」(広島市中区堺町二の五の一七 TEL 082-293-6996)にて肩の凝らない集まりを持ち同窓生の一層の交流を図ることにしています。

二、広島支部は約一二〇名の

一、先ず、とっておきのホットニュースをお知らせ致します。広島支部名誉会員、竹村照雄先輩(20回生東京都多摩市在住)「一検察官の軌跡」(法学書院刊)の著者(元広島高検検事長・弁護士)で東京都千代田区にて竹村法律事務所を開設され一流のリーガルサービスを提供してこられた大先輩が平成一〇年四月一日付で学校法人相模女子大学理事長にご就任され、終生の課題として掲げてこられた「教育とは何か」について更に深耕されるというご挨拶を頂きましたので同窓会の皆さんに広くお知らせ申し上げます。

六、広島支部総会の魅力は毎回必ず遠路東京からご参加頂いている竹村照雄大先輩の弁護士実践活動から培われた珠玉のお話と出席同窓生の近況報告を織り込んだそれぞれに個性溢れる三分間スピーチが中心ではないかと思っております。和やかな集いの輪の中にいても燃ゆる思い沸いてくる

と述べられた女性会員もいらっしやるほどです。

香川支部

事務局長 土田 哲也
(32回生)

同窓会本部の会報が創刊されることになり、心からお慶び申し上げますとともに、関係役員の御尽力に対し深く敬意を表します。

母校で先日ホームページが開設され、この度会報が発刊されることになり、支部の会員にとりましては、教職員、在校生、卒業生の方々と急速

に接近することができるようになりました。大いなる進歩で喜ばしい限りです。今後は、支部の会員も続刊を心待ちにし、新たな交流拡大を期待することと思っております。

情報化の時代といわれるようになって相対時間が短縮しましたが、苦手な世代の一人である私も否応なしにパソコンと縁が切れなくなりました。ごく最近まで同窓生とは直接会うか、文通、電話での交流でしたが、FAXやEメールで時間や場所を選ばず交流できるようになりました。便利さを実感する一方で、追われるような気分もありません。

しかし、現実には情報と上手に付き合っていかなければならない時代です。鉄腕アトムの漫画に描かれていた生活様式や生活空間がかなり現実のものになりました。今後は、本部・支部間の連絡や情報交換もパソコン通信によることになるでしょうが、印刷体の情報と電子情報のそれぞれの長所を生かして有益な情報発信がされていくことが必要だと思います。また会報を発刊できていない当支部としても情報化にどう対応するか考えて

いかなければなりません。支部の役員の皆さんは優秀ですが、それだけ職場で忙しくしています。人手の問題だけでなく整備すべき条件は多々あります。先発の支部に習いながら、一歩ずつ解決していきたいと念じています。

編集委員の方は御苦労様ですが、広い世代にわたる多彩な記事、写真・イラスト、母校と高知の紹介など掲載して下さるよう期待しております。不況感漂い、明るく活気のあるニュースの少ない昨今ですので、土佐の地より刺激のある情報発信がされますようお願いしております。



本紙カットは、中学2Cホーム 西尾由衣さんです

ホームページ開設のお知らせ



<http://www.inforiyoma.or.jp/tosako/>

＜内容＞

新着情報／校長挨拶／沿革／

校歌／応援歌／生徒募集要

項／大学進学状況 施設／ク

ラブ活動／年間行事カレンダー

／運動会のやぐら／所在地

地／同窓会のページへ

＜同窓会のページ＞

41回生／49回生／51回生／56

回生／57回生／64回生／68回

生

＜同窓生のページ＞

28回生依光幸夫さん／40回生

岡林哲夫さん／59回生阿波谷

敏英さん／放送部OB会

※本校のホームページは、ま

だまだ未完成で内容を更に充

実発展させていくべくがんば

っておりますので何卒ご指導

の程お願いいたします。なお、

ホームページ開設にあたりま

して卒業生の皆さんには絶大

なるご協力をいただきありが

とうございました。

〒780-8014

高知県高知市塩屋崎町

1丁目1-10

土佐中学校・土佐高等学校

TEL 0888-33-4394

FAX 0888-33-7373

Tosako@mbinforiyoma.or.jp

一九九七年度 物故者名簿

平	9・5・30	森	祐康 (35H)
9	・6	山崎	英正 (67H)
9	・6・18	中沢	洽樹 (9)
9	・7・3	前島	武彦 (25)
9	・7・12	田邊	善丸 (18)
9	・8	浜田	征男 (36K)
9	・8・29	堀	昌雄 (28)
9	・9・5	若林	啓子 (28N)
9	・9・8	和田	富二雄 (9)
9	・10・8	武田	信 (61S)
9	・10・11	山崎	丘 (62N)
9	・12・15	池上	光信 (37T)
10	・1・6	近森	太平 (47S)
10	・1・10	岩井	光生 (52S)
10	・1・16	河野	紀子 (34T)
10	・1・29	上島	紳介 (54H)
9	・5・29	水野	亮三郎 (旧誌)

編集後記



やっとな芽が出た本部の会報、育ててくださる皆の衆。

関東支部の「筆山」、関西支部の「なんぼう」、広島支部の「青春」につづいて昨年、東海支部の会報誌「わかしゃち」が創刊されたこともあり、先輩諸兄から本部も会報誌を作った方がよいのではないか、

部史発刊！

校長先生をはじめ多くの方々から寄稿いただき、数十社のご後援並びに会員の協力等で昭和二十四年来の部活、五〇周年史(2011)が出来ました。学生時代悪名高き連中が真面目に取りくんで作成したこの部史を、同窓生にも是非一度ご覧になっていただきたいと思います。

入手希望の方は事務局(高知市上町二丁目二) 刈谷印刷所 TEL 72-1497)まで一報ください。
母校並びに、土佐中・高等学校同窓会の益々の隆盛を願ひ、関係各位に對し心より感謝しお礼申し上げます。
土佐中・高等学校ハンドボールOB会

との暖かい励ましのお言葉をいただき、新しい本部の役員で検討いたしました結果、岡村会長の積極的な意向もあつて、山崎副会長をチーフに数回の編集会議を経て、ここに創刊号が誕生いたしました。

編集会議には、母校在校幹事会から土居、岡田、鎌田、小村の各先生方にご参加いただき、一方ならぬお世話になりました。

また、宇田理事長、森田校長、田村振興会会長ならびに同窓会各支部のみなさんには、ご寄稿をお願いし、華を添えます。

この場をお借りして、ありがとうございました。がたく厚くお礼申しあげます。今後、誌面の充実を図るため、各回(ホーム)の幹事さんには、同窓生に関するニュースや会報誌にふさわしい記事などを随時、ご提供賜れば幸いです。

また、編集のお手伝いをしていただけの方がいらつしゃいましたら、どうぞ遠慮なくお申し出いただき、ご助力下さいますようお願いいたします。(幹事長 岡内 紀雄)